

初年次教育とキャリア教育の連携と 初年次教育推進室の役割

上田大作
創価大学

よろしくお願いいたします。創価大学のキャリアセンター部長を務めております上田と
います。今回、開会校ということで、事例報告となったと認識しておりますので、創価
大学が今どのようなキャリア支援をしているのか、これまでどうだったのか、そして今の
課題は何なのかということについて、簡単にご説明できればと思います。

まず、キャリアセンターという名前ですが、今から15年前、当時、就職部という名称
が各大学でも多かった時に、部署の名称をキャリアセンターに変えまして、3年生・4年
生の就職支援だけでなく、1・2年生も含めたキャリア支援の取り組みをスタートしまし
た。

特に、このキャリア支援をしていくに当たり、学生がキャリア形成をしていくためのプ
ログラムを、本学では「F3プログラム」と名付けました。このF3の3つのFはSelf-
Future, Self-Frontier, Self-Foundation というこの3つのFを取ってプログラム名としまし
て、キャリアセンター発足の翌年、2005年に「知力」「人間力」「貢献力」を土台にして、自
分の未来を切り開いていけるようにという思いを込めて開始しました。

2006年からは、キャリア科目を開講することができるようになりました。それまでは
正課外、つまり授業時間外で、さまざまなガイダンスであるとか、講座であるとか、そう
いったものを実施していましたが、クラブやサークル、アルバイトなど、学生も本当に忙
しくしておりますので、授業外の時間で何かをやらうとすると、参加できない学生が出て
きます。そこで、授業内で行うことができれば、より良い支援ができるのではないかと
いうことで、1年生・2年生が授業の中でキャリアのことを考えられる科目を始めたとい
うのがキャリア科目のスタートになります。

それから2年後、キャリア科目を拡充することができまして、3年生向けに「キャリア
ビジョンI」というどちらかという希望する進路を実現する支援に重点を置いた科目を
開講しました。今まで授業外の講座でやっていたもののうち、授業の中でさまざまな支
援をできるような形に組み替えていったというようところが、10年前ぐらいの取り組み
です。

キャリア科目である「キャリアデザイン基礎」は1年生、「キャリアビジョンI」は3年生
の履修する科目ですが、この二つの科目には、キャリアサポートスタッフ、リクルートサ
ポートスタッフという進路・就職の決まった4年生が授業のサポートスタッフとして加
わっています。実際に4年間、学生生活を過ごして、こういうふうにして進路を考えてき
たというスタッフの経験もふまえ、1年生、それから3年生のキャリア科目の履修生をサ

ポートしていきます。具体的には、面談という形で学生1人に対して約1時間の面談を2回ほど行って、卒業後の進路や学生生活を一緒に考えたり、3年生の「キャリアビジョンI」では、希望進路の実現に向けた具体的な行動を促進したりする、個別の進路サポートです。キャリアサポートスタッフについては2009年度から、リクルートサポートスタッフについては2012年度から、履修者へのサポートを始めました。

これと前後する形になりますが、大学の就業力育成支援事業(就業力GP)に本学が採択されまして、経済学部をモデルに、この採択に当たって「創価大学における就業力」として、10個の就業力を定義しました。そのうち3つがリテラシー分野、7つがコンピテンシー分野として就業力を定義して、これを4年間かけてしっかり伸ばしていこうと考えました。

そして、経済学部がパイロットケースでしたので、当時のものになりますけれども、大学でのさまざまな学びや経験を通して就業力を養成していくために、学部の専門領域とキャリア教育をどのようにかみ合わせていくのかという点を、今から10年前ぐらいにこの就業力GPの採択とともに、学内で議論しました。

初年次教育について、どのような形で学問として早い段階で位置付けて実施していくのか。また、経済学部独自の International Program という英語で経済学を学ぶという、学部の専門分野を英語で学ぶプログラムに加えて、後ほど説明しますが、「進路の仮決め制度」を設け、「学問」「世界(語学)」「仕事」をリンクさせながら、就業力の養成をしていこうということを、経済学部を皮切りに全学部へ展開していきました。

こうした就業力養成が全学的な取り組みとなり、現在では、1年生の春学期に開講しているキャリア科目は2科目になります。先ほど紹介したキャリアサポートスタッフは、内定の決まった、また進路の決まった現役の学生になりますので、春学期の段階では、4年生が就活中という状況もあって、ここは卒業生の力を借りています。1年生に仕事と学生生活というテーマを中心に卒業生に講義してもらうのが「キャリア開発フォーラム」。そして、グローバルに活躍している卒業生を招いて、中には海外に駐在している卒業生の一時帰国の際に講義をお願いするという形で、リアリティーのある世界の現場の話をしてもらう「ワールドビジネスフォーラム」という2科目です。

本学の学部構成とか学生数という説明を端折って話を始めておりますが、本学の入学定員は1,500名で、そのうち民間企業に就職していく学生が毎年約1,000名です。そういう状況にある大学と見ていただいた上で、この春学期の「キャリア開発フォーラム」の履修生が342名。「ワールドビジネスフォーラム」の履修生が417名です。それぞれ学生自身の趣向に沿って、国内で、また海外で働くイメージでキャリア科目を選んで受講するのが春学期です。そして秋学期に開設している科目が「キャリアデザイン基礎」。2006年から開講している科目ですが、「自分」「仕事」「社会」をテーマに、4年間の学生生活の計画をつくっていったり、卒業後のキャリアデザインを考えたりしています。

この科目は、履修の上限を設けておりまして、48名1クラスで11クラス、528名が受講することになります。先ほどの春学期の科目と連動する形で、「キャリア開発フォーラム」を受けた学生がキャリアデザイン基礎、そして「ワールドビジネスフォーラム」を受けた学生がキャリアデザイン基礎のグローバルクラスというような形で分かれて、キャリアサポートスタッフを配置して授業に臨みます。各クラス48名の履修生に3名のキャリア

サポートスタッフがつき、スタッフ一人が16名を担当して、1時間程度の面談を2回行って、「進路の仮決め」を、1年間の総仕上げとして一緒に取り組んでいきます。

「進路の仮決め制度」というのは、2012年に開始した制度で、1年生の終了時点で、それぞれの学生の進路の希望に沿って、進路を仮決めするものです。進路がはっきり決まっていなくても、一応、公務員かな、学校の教員かな、また民間企業かななど、さまざまな進路を考え、仮決めするサポートを行っています。そして仮決めした進路を持った上で、先述の「創価大学における就業力」を測るテストを行って、自分が目指している進路に足りていない力はどんな力なのか、また自分が持っている力で、さらに何を伸ばしたほうがいいのかということを確認します。2年生になると、仮決めした進路について、テスト結果に基づきながら、もう一度学生生活の練り直しであるとか、また就業力を強化していくワークショップを設けています。このテストは、3年生・4年生でも受験してもらい、就業力の状況を追っていきます。

また、2年生の学生のうち、1年生の時に「キャリアデザイン基礎」を履修した学生に対して、担当についていたキャリアサポートスタッフが、大学を卒業して社会に出た後、日曜日・祝日を中心に、7月と1月に毎年度、母校に戻ってきて、「学生生活、どうだった?」「立てた目標はどこまで進んだ?」というように振り返りを一緒にやりながら、個別相談に応じてくれています。

これをずっと繰り返してきておりますが、毎年度の課題が、キャリアサポートスタッフ、リクルートサポートスタッフに面談スキルを身につけさせることです。これには、キャリアセンターの職員で、キャリアコンサルティング技能士やキャリアカウンセラー等の、さまざまな資格を持ったスタッフがコーチングの他、いろんなスキルを伝えております。しかしながら、授業にかかわるサポートスタッフの質保証は毎年の課題です。

そんな折、2016年に、「初年次教育推進室」が設置され、「スマートリーダーシップ」という科目がスタートしました。学生一人一人が主体的・協調的に行動できるようリーダーシップについて学修する科目が開講したことによって、これまでのキャリア教育・キャリア支援と、初年次教育が連動してきました。さらに、昨年、キャリアセンターの職員1名が、初年次教育推進室の構成員となり、SA等のピアリーダーの育成、またキャリアサポートを行う学生の育成について、どのような形で早い段階からリーダーシップという観点でトレーニングができるのかということも協議してまいりました。

そして、もう1つ、本年度よりキャリア科目を担当する専任教員を採用することができまして、その専任教員も初年次教育推進室の構成員になりました。現在、本学では正課内をキャリア教育、正課外をキャリア支援という形で、整理を進めております。ちょっと見づらい図かもしれないですけども、現状の秋学期のキャリアに関する全学的なサポート体制ですが、本学では教職協働のキャリア委員会がありまして、教員サイドで、初年次教育推進室の専任教員を中心に「キャリアデザイン基礎」であるとか、3年生の「キャリアビジョンI」等のキャリア教育の検討を進めます。そして、キャリアセンターの職員のほうは、正課外のイベントで、いかにキャリア支援、そして就職支援をしていくのかということに注力をします。それぞれの役割に基づく取り組みをキャリア委員会で共有しているのですが、本年は新しい組織の設置や構成員の充実もあって、より良いキャリア教育、キャリア支援を推進しようということが、もう一段階、先に進んだと認識しております。

本学の今後の課題として、教育学部における教員養成、看護学部における看護師養成、そして文学部で社会福祉士の資格が取れるコースもあり、キャリアセンターでは、民間企業、公務員、公認会計士や税理士、各種の資格試験のところまではカバーをしておりますが、全学的にこの進路、そしてキャリア支援の質保証ということについて、統一感を持って進めていく必要性を感じています。

民間企業だけとって、インターンシップをどのような形で、より早い学年から経験できるようにするのか。そして、就職協定が廃止となった採用活動で、どのような形で支援をしていくのか。ゴールデンウィーク前でしたが、初めての履修登録が終わっていない一人の1年生がキャリアセンターを訪ねてきて、「インターンシップ、どこに行ったらいいでしょうか」と言うんです。早期化への対応をどこまでするのか本当に思案しております。

これまで、社会人基礎力をベースに「F3プログラム」、また「創価大学における就業力」というものを考えてまいりましたが、今後は経済産業省の「人生100年時代における社会人基礎力」に基づいて、取り組みの見直しをする段階に来ていると思います。本学では、さまざまキャリア支援を、学生のサポートをうまく活用しながら実施してきました。この支援を充実させようとする、進路が早期に満足のいく形で決まってしまう学生をしっかりと育成しなければいけないですし、さらに増員しなければなりません。そのためには、スタートして3年目を迎える「スマートリーダーシップ」であるとか、初年次教育推進室と連携して、キャリア教育・キャリア支援をもう一度見直す必要があると思っております。

本学は「スーパーグローバル大学創成支援」の採択もあり、グローバル化を進めています。留学生のキャリア・就職支援についても、日本で就職をしたい、日本語を学ぶ留学生のほかに、英語だけで学位が取得できるプログラムを大学全体で11コース、学部・大学院で設けておりますので、日本語はあまりできないけれども、日本で就職をしたいというような留学生の要望にも対応することも検討を始めています。

最後になりますが、キャリアサポートスタッフ、リクルートサポートスタッフにつきましては、高校の進路指導担当の教員に、季刊で年4回送られている雑誌で取り上げていただきましたので、先ほどの「F3プログラム」の詳細と合わせて、もしご希望があれば、今日準備をしておきましたので、名刺交換等をさせていただいた時にお渡しできるかと思っております。ご清聴ありがとうございました。以上でございます(拍手)。